

第七十四回県陸上競技選手権大会は最終日の七日、袋井市のエニオスタジアムで男女二十種目の決勝戦が行われる。一般から中学生までの選手が八月に、県東で開かれる東海陸上競技選手権大会の出場権をにかけて競った。

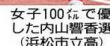
(石川淳)

女子の投げは望月知葉選手（藤原誠誠高出身、東京学芸大）が59.35の大会新で制し、三連覇を達成。男子1600ギリレーの常葉大も3分12秒97の大会新

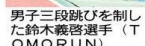
女子やり投げは、月知葉選手（藤枝建設高身、東京芸大）が53.35の大大会新で制し、三連覇を達成。男子1600リールの常葉大も3分12秒19の大大会新で優勝し、女子1000リールは藤森葉那選手（浜松市立高身、明大）が勝つて四連覇を飾り、同1600リールの駿河台大も四連覇を果たした。1000リールは男子は竹田一平選手（スズキ浜松大）、女子は内山響吉選手（浜松市立高）が勝った。

○女子1000mの内山響香選手（浜松市立高一）は、年上の大学生や実業団選手を抑えて優勝した。

脊に左大腿（お尻のあたり）部を痛め、トレーニングやサポーターで保護していたが最近完治した。この日はサポーターを外し、この夕々のレースで、スタート直後から加速。この種目で昨年まで三連覇し、今年から東京



○男子三段跳びで優勝した鈴木義盛選手（TOMORUN）は「終盤で記録を伸ばせず、物足りない結果になってしまった」と振

[illegible]

最終日の成績

[illegible]